

正野重方教授の業績と評価について

本誌8月号に J. M. Lewis 氏による「正野重方—The Uncelebrated Teacher—」が掲載されている。そこには、正野教授の経歴や学問的業績、さらには東京大学の気象学教授として彼が果たした指導力の影響などが、その身近にいた多くの人々の証言をも交えてこと細かに語られている。現在20～30歳代の気象学会員にとって直接には知ることの無いであろう当時のエピソードの数々が、Lewis 氏の努力により、正野教授の没後二十数年経った今日、あらためてこのような形で紹介されたことは、正野教授の薫陶を受けた者の一人として大変嬉しく思う。アメリカ人でありながら、このように、日本の気象界に関心を寄せてくれた Lewis 氏に感謝の意を表したい。

しかしながら、残念なことに、この Lewis 氏の論評の中に、その論旨にとって極めて重要と思われる事項がひとつ欠落している。それは、正野重方教授が1961年にアメリカ気象学会の名誉会員に選ばれたという事実である。

アメリカ気象学会誌 (Bulletin, Vol. 42, No. 6,

1961) の記事には「東京大学地球物理学教室の正野重方教授は、気象学における卓越した貢献と国際協力の発展に尽した功績により、アメリカ気象学会の名誉会員 (Honorary Member) に選出された。」とある。この文章は、1960年の国際数値予報東京シンポジウムに対する評価のみならず、その背景となる正野教授自身の大気擾乱の研究がアメリカでも(間接的にせよ)知られていたことを意味している。

現在、アメリカ気象学会の名誉会員は50名以上を数えているが、正野教授が選ばれた1961年には僅か13名であり、そのメンバーは、Sir Edward Appleton をはじめとする錚々たる顔ぶればかりである。

その意味で私は、Lewis 氏が正野教授を “uncelebrated” と表現したことにはいささかの遺憾の念を覚え、アメリカ気象学会名誉会員のことを Lewis 氏に書き送ったところ、折り返し同氏から次のような「補遺」が送られてきた。「天気」編集委員会のご判断により、以下にその和訳を掲載して頂く。

(京都大学 廣田 勇)

「正野重方—The Uncelebrated Teacher—」の補足

廣田教授の示唆に従い、The Uncelebrated Teacher という副題を選んだことについて、特に正野重方がアメリカ気象学会の名誉会員に選ばれているという見地から、その経緯を明らかにしたい。1961年に正野が名誉会員に推挙される直前には、Appleton (Scotland), Bergeron (England), J. Bjerknes (Norway), Brunt (England), Gold (England), Klopsteg (U. S. A.), Kolmogorov (U. S. S. R.), Normand (England), Palmén (Finland), Simpson (England), Solberg (Norway), Taylor (England), von Kármán (U. S. A.) らが名誉会員に名を連ねていた。疑いもなく、この名誉会員リストには20世紀の気象学のエリート達が含まれている。

この The Uncelebrated Teacher という副題は、1990～1991年にかけて私がアメリカとヨーロッパにおいてインタビューによって史料を収集している時に思い付いたものである。第2次大戦後に活躍した著名な

気象学者達から、聞き書き史料を収集する過程で、これらヨーロッパの科学者の多くが正野のことについてほとんど知らないことが明白となった。第2次大戦後の気象学の歴史を再構築し、いくぶん控え目で、もの静かであるが、しかし自信に満ちていた正野の個性に関する資料を照合させてゆくにしたがって、残念ではあるが、他の人々が彼(正野)の業績について知らないのも仕方がないと思えた。確かに彼はもっと国際的な評価を享受すべきであった。しかし彼は、東京大学における気象力学研究グループから輩出した優れた研究者を育てたという役割を、もっとも誇りに思っていると、私は確信している。

(NOAA/ERL, NSSL John. M. Lewis)

【編集委員会注】

8月号に掲載した解説「正野重方—The Uncelebrated Teacher—」について、京都大学の廣田教授より